

用法及び用量、調製方法に関する注意 [成人及び体重 40kg 以上の小児]

■ 成人及び体重 40kg 以上の小児への投与方法に関する注意

体外式膜型人工肺（ECMO）又は侵襲的人工呼吸器管理が導入されている成人及び体重 40 kg 以上の小児には、レムデシビルとして投与初日に 200 mg を、投与 2 日目以降は 100 mg を 1 日 1 回点滴静注します。総投与期間は 10 日までとします。

ECMO 又は侵襲的人工呼吸器管理が導入されていない成人及び体重 40 kg 以上の小児には、レムデシビルとして投与初日に 200 mg を、投与 2 日目以降は 100 mg を 1 日 1 回点滴静注します。投与は 5 日目までとし、症状の改善が認められない場合は、さらに 10 日目まで投与します。

投与は生理食塩液に添加し、30 分から 120 分かけて点滴静注で行います。

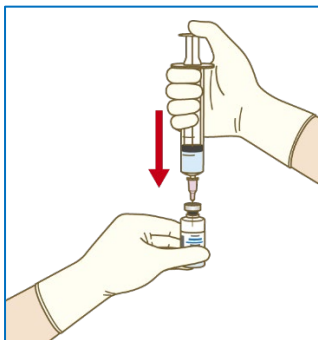
■ 調製方法及び調製時の注意

（ベクルリー 点滴静注液 100 mg : 水性注射液）

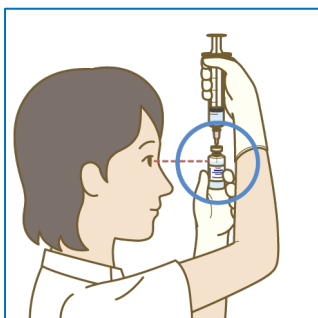
- ① 必要なバイアル数を 20～25℃に戻します。ただし、20～25℃で 12 時間を超えて保存しないようにしてください。
- ② 容器施栓系に欠陥がなく、溶液中に微粒子がないことを目視で確認します。欠陥や微粒子がみられた場合は使用しないでください。

（ベクルリー 点滴静注用 100 mg : 凍結乾燥製剤）

凍結乾燥製剤は用時溶解して投与します。



- ① バイアルに 19 mL の注射用水を加えます。
- ② 直ちに 30 秒間攪拌し、2～3 分間静置した後、澄明な溶液であることを確認します（濃度 5mg/mL）。



- ③ 内容物が溶解しきれない場合は、攪拌及び静置を繰り返します。
- ④ 容器施栓系に欠陥・変色がなく、溶液中に微粒子がないことを目視で確認します。欠陥・変色や微粒子がみられた場合は使用しないでください。

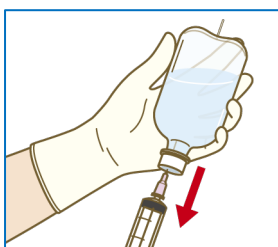
* 注射用水に溶解後、20～25℃で 4 時間又は 2～8℃で 24 時間以内に使用してください。

■ 希釈方法（共通）

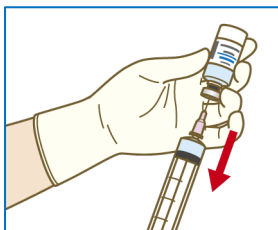
- ① 表 1 により、投与量を決定します。点滴静注液を使用する場合は、生理食塩液に添加後の全量を 250mL としてください。

表 1. 投与量(点滴静注液を使用する場合は、生理食塩液に添加後の全量を 250mL としてください)

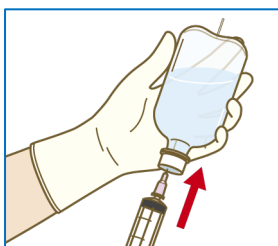
投与量		希釈後のバイアルから 抜き取る量 (mL)	生理食塩液に添加後の全量 (mL)
投与初日	200 mg (2 バイアル)	40 (20×2)	250
		40 (20×2)	100
2 日目以降	100 mg (1 バイアル)	20	250
		20	100



- ② 希釈後のバイアルから抜き取る量と同量の生理食塩液を輸液バッグから抜き取り、抜き取った生理食塩液を廃棄します。



- ③ 表 1 に示す希釈後のバイアルから抜き取る量をバイアルから抜き取ります。バイアルに残った未使用の希釈液は廃棄します。



- ④ 希釈後のバイアルから抜き取り、使用する輸液バッグに注入します。



- ⑤ 静かに 20 回を目安に反転させて混和します。振とうは避けてください。

* 生理食塩液に添加後、注射用水で溶解してからの時間を含めて、20～25℃で 4 時間又は 2～8℃で 24 時間を超えた溶液は使用せず廃棄してください。

* 不注意による微生物の混入を防ぐため、混和中は注意してください。

* できる限り、調製直後に投与するようにしてください。

■ 投与方法（共通）

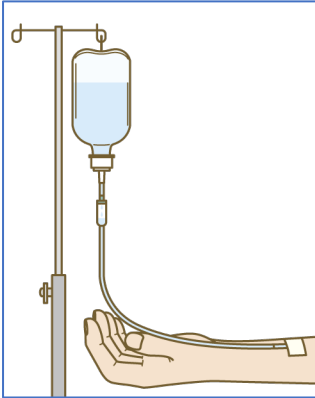


表 2 に示した投与速度で 1 日 1 回点滴静注を行います。
点滴静注液を使用する場合、輸液バッグの使用量は
250mL です。

表 2. 投与速度

輸液バッグの使用量	点滴時間	投与速度
250 mL	30 分	8.33 mL/分
	60 分	4.17 mL/分
	120 分	2.08 mL/分
100 mL	30 分	3.33 mL/分
	60 分	1.67 mL/分
	120 分	0.83 mL/分

インフュージョン・リアクションの発現を回避するため、最大 120 分間にてより緩徐に投与することが推奨されます。

- * 他の薬剤と同時に投与しないようにしてください。本剤は生理食塩液以外との適合性は確認されていません。
- * 本剤は保存剤を含有しないため、調製後の未使用の希釈液及び使用後の残液は廃棄してください。
- * 筋肉内投与は行わないでください。

詳細は添付文書をご参照ください。

以上